



27号の主な内容

- 国連ハビタット福岡本部を囲むタベ
- イエメンだより
- Peoples's Process の支援
- 東さやかさんがセミナーで講演
- ハビタット支援コンサート、スケジュール

第 **27** 号
<http://cnhf.npgo.jp>

■国連ハビタット福岡本部を囲むタベ

2009年6月30日(火)福岡県知事公舎において、国連ハビタット福岡本部協力委員会総会が行われ、引き続き「国連ハビタット福岡本部を囲むタベ」が開催されました。



この会には日頃から国連ハビタットに様々な形で支援を行っている企業(協力委員会)、国連ハビタット福岡事務所の職員やその他関係者約60名が参加しました。市民の会からは、牟田、佐竹、諸藤、山前、島、橋詰の6名が参加しました。

当日は、大雨警報も出るというあいにくの空模様で屋内での開催となりましたが、麻生福岡県知事の挨拶に続き、日本ハビタット協会の副会長で国連ハビタット親善大使も務められている、マリ・クリスティーヌさんの乾杯の音頭と、華やかな雰囲気の中で懇談会は始まりました。



会場のあちらこちらには歓談の輪ができ、楽しいひと時を過ごすことができたと同時に、国連ハビタット福岡事務所に対する多くの方々の思いや、様々な分野・角度からの支援の一面を垣間見ることができ、これからの市民の会の活動の重要性を再認識しました。



(橋詰)



■国連ハビタットがどんたくに参加

2009年5月3日(日)、博多どんたく港まつりのパレードがあり、国連ハビタット福岡本部の皆さんが、初参加しました。



野田本部長以下、冷泉公園に集合し、揃いの T

シャツに



左から、ヤンさん、ローウィさん、野田本部長、バラットさん

■イエメンだより

「幸福のアラビア」の幸福のために
—中東の親日国イエメン—
春田博己



在イエメン日本大使館二等書記官

私は、2001年の冬、約3ヶ月の間、地元福岡に新しくできた国連ハビタット福岡事務所でインターンをしていました。様々な事務補助の他、温暖化ガスの発生を抑え、低コストでゴミ処理を行う、いわゆる「福岡方式ごみ埋め立て工法」の実行可能性リサーチ（feasibility study）等に従事しました。またハビタット福岡市民の会の一員として「地球市民どんたく」でハビタットの活動紹介をしたこともあります。現在は外務省に入省し、在イエメン日本大使館で経済協力と広報文化を担当しています。



今回は私の勤務するイエメンという国、及びこの国での経済協力活動について簡単に紹介したいと思います。

アラビア半島の南西端、紅海とインド洋に面する要衝にイエメンはあります。日本の約1.5倍の国土に約2,300万人が暮らしています。

かつてはアジアとアフリカ・ヨーロッパを結ぶ交易で栄え、またアラビア半島の中では緑が多く豊かな土地であったことから「幸福のアラビア」と称されたイエメン。世界遺産に登録されている首都サヌア旧市街は、当時金を越える価値を持っていたとされる乳香の取引で繁栄を極めた面影を随所に残しています。



サヌア旧市街

歴史的文化遺産や自然遺産も多く、訪れる旅行者を魅了するイエメンですが、その一方で、石油収入で潤う周辺アラブ諸国の狭間で未だ4割の国民が1日2ドル以下の生活を強いられるなど「中東の最貧国」であり、街でも職に就けない若者がたむろしたり、物乞いをする女性・子供の姿を多く見かけます。

国内外に様々な問題を抱えており、慢性的な水不足、電力不足、急激な人口増加、高い乳児死亡率、基礎教育への就学率の低さ、テロ・誘拐等の治安問題等の国

内的な問題に加え、昨今の金融危機や原油価格の急落、対岸のソマリアからの難民問題及び海賊問題等の国外的な問題もあり、どの問題一つをとっても簡単な問題ではありません。

当国において経済協力を担当していると、上記のようなあまりの問題の多さに脱力し、時として空虚感すら覚えることがあります。しかし、基礎教育、職業訓練、保健医療、給水、食糧増産、治安・海賊対策等、様々な分野に亘る日本のきめ細かい援助はイエメンの人々に高く評価・感謝され、少しずつではありますが着実に実を結んでいます。

どれだけ貧しくても旅行者を騙して金品をくすねたり、強盗したりしないイエメン人の高潔さ、さらにこれだけ貧しい国でありながら数万人ものソマリア難民を受け入れるイエメンの寛容さ、そして日本の援助に対する素直な感謝の言葉を思い出すとき、イエメンに再び「幸福のアラビア」と呼ばれる時代が訪れるよう、精一杯支援してあげたいという気持ちが沸いてきます。

まだまだ日本人には馴染みの薄い国ですが、逆にイエメンの人々は日本が戦後成し遂げた成長と発展に尊敬と憧憬の念を抱いており、非常に親日的です。これを機に福岡、そして九州の皆様にも中東の親日国イエメンのことを少しでも知って頂ければ幸いです。



■People's Process の支援



引渡式で日本側一行を歓迎する住民



開発調査で供与した揚水ポンプから勢い良く水が吹き出す

一人々が本来持つ可能性の開花に向けて

国連ハビタットでは、「スラム改善」や災害・紛争の「復興支援」など様々な状況下において、そこに住む住民が自らの意思で物事を決定し、生活を改善していくプロセスを、過去20年にわたって支援してきました。このような「住民自身が自らの開発（改善）を行うプロセス」は居住開発分野において“People’s Process”と呼ばれています。ここでは、People’s Processの支援アプローチと実践事例を簡単にご紹介いたします。

People’s Processの支援アプローチでは、住民をプロジェクトのプロセスに参加させるのではなく、人々の開発プロセスに外部者がどのように参加するかが重要であり、外部者や専門家はPeople’s Processの支援に徹することが求められます。その支援とは、住宅を直接供給するのではなく、低所得者層に対し一定の土地に安定して住めるように保障したり、技術や資金など資源へのアクセスを可能にする仕組みを整えることなどです。

紛争復興を行っているアフガニスタンでは、「国家連帯プログラム」が全ての州で実施されています。ひとつのコミュニティー（200世帯程度）の住民を10～30世帯にグループ化して、選挙を行い、「コミュニティー開発協議会」のメンバーを選出します（写真参照）。コミュニティー開発協議会では、限られた予算の中でプロジェクトを検討し、決定された活動を実施するため、コミュニティーと中央政府の間でコミュニティー契約が締結されます。そして、プロジェクトの進捗に応じて資金が供与され、住民の手によってプロジェクトが実施されます。これによって、コミュニティー内に雇用機会が創出され、住民の技術習得にもつながります。

2009年1月時点で、全国で21,760のコミュニティー開発協議会が設立され、給水、下水、道路、灌漑などのプロジェクトが完了しています。その後、コミュニティー協議会を通じて、識字教育・職業訓練・ヘル



18歳以上の男女が初めての選挙に参加（出所）国連ハビタットサービスなど様々なプロジェクトが実施されています。また住民同士の揉め事の仲裁の場になるなどの自治機能も強化されつつあります。アフガニスタンは地方の末端まで行政組織が存在していませんが、そのような地域では、コミュニティーこそが復興の力となるのです。

東さやかさんがセミナー

6月26日（金）川端中央商店街振興組合事務所にて、セミナー企画室「コスモポリタンズ」が主催するセミナーで、「世界の移動する人々」というテーマで、国連ハビタット福岡本部プロジェクトアシスタント東さやかさんが講演しました。



自身の留学経験、国際NGO所属時代の経験を中心に、コスモポリタン・ロンドン、移住を余儀なくされたパレスチナの人々、移民の島ハワイ、将来自身が移住するかもしれないフィリピンから移住する人々に関して語られました。

移民・移住のプラスの影響としては、受入国側は文化の交流、人材の流入、労働者の獲得、経済効果による社会保障の充実、送出国側としては外貨の流入、人口の調整、仕送りによる世帯収入の増加、移住者本人の新しいスキルや言語の取得を指摘し、マイナス影響としては、受入国側は失業率の悪化、社会保障の充実の必要性にせまられる、人種・民族による差別、感染症が持ち込まれる懸念、送出国側としては人材不足、家族の別離・崩壊、また本人の精神的な負担、言語の問題を指摘しました。

世界の経済・文化・教育の中心であるロンドンでは9.11の影響やイスラム教徒に対する差別の問題がある一方、移民の子孫の活躍が目立ってきていることや、移民の多い東ロンドンの街、移民に対する社会サービスを充実させるための地方自治体の取り組みや欧州評議会イニシアティブを紹介しました。

長い移住の歴史を持つパレスチナに関してはパレスチナ人であるというだけで移動の制限を受けたり宗教によって異なる扱いを受け困難な生活を強いられている状況、破壊されるオリーブ畑、壁に囲まれた生活、難民6世にもなる子どもたちの様子について説明されました。また女性向けの職業訓練や専門学校の運営、保育園でのサマーキャンプ、子どものためのアイデンティティプログラムを行なっているNGO活動の紹介がありました。

「移民の島ハワイ」に関しては、最近のアジアやマイクロネシアからの移民による観光業の担い手としての経済効果や、貧しい移民が多く住むホノルル・カリヒ地区でのSusannah Wesley Community Centerによる24時間電話サービス、青少年のためのアクティビティ、貧困層向けの社会サービスを説明・紹介されました。

フィリピンでの御自身の経験を踏まえた複雑な国際



結婚手続きについてユーモラスに語られ、宗教・入籍・日本へのビザ取得について説明されました。（山前）

■ハビタット支援コンサート

第22回ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル公演が、7月15日にアクロス福岡のシンフォニーホールで行われました。

この公演は、アジア太平洋子ども会議・イン福岡と国連ハビタット福岡本部を支援するコンサートとして毎



年パナソニックが主催して行われています。

今年の公演も、うっとり聞き惚れる素晴らしい音色がホール中に響き渡りました。

印象に残った演奏としては、ガーシュウインのラプソディ・イン・ブルーで、ジャンス・マーティンがヴァイオリンで甘い音色を奏でたかと思いきや、ピアノでは激しいタッチで鍵盤を叩き、歌では透きとおるような美しい声を響かせるという多彩な才能を発揮しました。

アンコール曲では近代チェリストの父と呼ばれたスペイン人のカザルス作曲で、1974年国連の平和会議



で94歳を超えたカザルスが演奏し世界中に大変感動を与えた曲「鳥の歌」を演奏してくれました。

丁度その日が誕生日であった私にとってはこの上ない誕生日の贈り物になりました。(佐竹)

編集後記

今年の梅雨は、長くて激しいですね。7月も終わりに近いのにまだ梅雨明けしてないとは・・・。更に新型インフルエンザがまだ流行している。ニュースレターの発行が迫る先の日曜日、私の地域では避難勧告まで出る中、それにもめげずハビタット福岡本部のラリットさん、ネルムさんらと、スリランカカーパーティをしました。二人とも料理上手で、皆さんにも味わってもらいたかったです。この号は、イエメンだよりを含めスムーズに原稿が集まり、盛りだくさんです。次回は、会員の皆さんからの寄稿もお待ちしてます。

■今後のスケジュール

下記スケジュールは、変更になることがありますので、メールやウェブサイトで確認ください。

8月20日(木) 19:00～ 定例会

勉強会：内容未定

9月17日(木) 19:00～ 定例会

地球市民どんたく準備

10月5日(月) 世界ハビタットデー参加

10月10日(土)～11日(日)(予定)

地球市民どんたく

アクロス福岡 2F 交流ギャラリー

11月19日(木) 19:00～ 定例会

ニュースレター第28号発行

12月10日(木) 19:00～ 定例会

国連ハビタット福岡本部との交流会

(クリスマスパーティ)

2010年

1月21日(木) 19:00～ 定例会

勉強会：内容未定

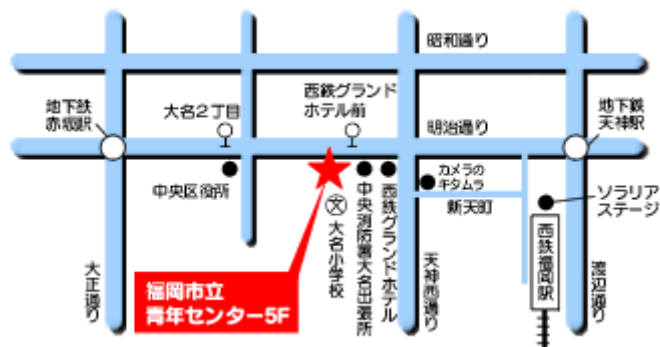
2月18日(木) 19:00～ 定例会

総会および交流会

3月18日(木) 19:00～ 定例会

定例会の場所は、福岡市立青年センター5F

福岡市 NPO・ボランティア交流センター「あすみん」



■事務局からのお願いとお知らせ

●会費納入のお願い

会費の納入がまだの方は、下記へお願いします。

年会費 一般 2,000円 学生 1,000円

郵便振替口座 01730-0-78434

加入者名義 ハビタット福岡市民の会

●市民の会のリーフレットは、下記ホームページから

事務局・お問い合わせは

郵便物のあて先は：

〒810-0041 福岡市中央区大名2-6-46

福岡市 NPO ボランティア交流センターあすみん連楽ボックス2号

お問い合わせは：

TEL 090-6770-2481(代表 牟田)

FAX 0942-41-2080

E-mail: cnhf@nngo.jp

URL <http://cnhf.nngo.jp>

